

JCOG1110-A

「根治手術が実施された上部尿路癌におけるリンパ節郭清術の意義と術後の膀胱再発に関する調査研究」の概要

研究対象

1995年～2009年に、遠隔転移の無い上部尿路癌(腎盂癌・尿管癌)に対して腎尿管全摘術が行われた患者さんを対象とします。

研究の概要

上部尿路癌の患者さんの現在の標準治療は「腎尿管全摘術」です。この手術の際のリンパ節郭清の意義や、適切なリンパ節郭清範囲については確立していません。また、術後は約40%の患者さんにおいて膀胱癌が発生しますが、これを予防する術後補助療法に関しても現在のところ十分なエビデンスはありません。

この点を解明すべくJCOG泌尿器科腫瘍グループでは、ランダム化比較試験を計画しています。ランダム化比較試験を行うには、上部尿路癌の患者背景、頻度、治療成績などを事前に把握する必要があります。本研究は次期ランダム化比較試験に向け上記情報を収集検討します。

研究の意義

上部尿路癌の患者さんに対して、リンパ節郭清の意義や術後の膀胱癌発症予防のための術後補助療法の有用性を検証する試験を行う上で、本研究の結果は非常に重要な情報となります。

目的

上部尿路癌に対して腎尿管全摘術が施行された患者に対し、その手術術式と摘出標本の病理組織学的所見、治療成績などに関する調査を行い、現在の日本における治療の実態を明らかにするとともに、リンパ節郭清の意義や術後の膀胱癌発症予防のための術後補助療法を確立する試験の準備のための情報を収集します。

方法

1995年～2009年に、遠隔転移の無い上部尿路癌(腎盂癌・尿管癌)に対して腎尿管全摘術が施行された患者さんを対象とし、手術術式、摘出標本の病理組織学的所見、リンパ節転移の状況、術後膀胱癌発症の状況、治療成績などを既存資料から収集します。

個人情報保護に関する配慮

本研究参加施設に通院されている方で、本研究の対象に当てはまると思われる方は、カルテなどに記載されている既存の情報を取得し、利用させていただいている場合があります。勿論、本研究では個人が特定されるような情報は一切公表いたしません。ご自身の診療情報が利用されているかど

うかお知りになりたい方は担当医師までご連絡下さい。また、ご自分の情報を研究に使わないで欲しい、というご希望があれば、担当医師までご相談くださいますようお願いいたします。

研究機関名

JCOG 泌尿器科腫瘍グループに属する 38 施設
(http://www.jcog.jp/basic/partner/group/mem_uosg.htm)

JCOG泌尿器科腫瘍グループ代表者

香川大学医学部 泌尿器科
笥 善行

研究代表者(本研究全体の責任者)

九州大学大学院医学研究院 泌尿器科学分野
内藤 誠二

研究事務局(本研究に対する問い合わせ先)

黒岩 顕太郎 (九州大学大学院医学研究院 泌尿器科学分野)
〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1
TEL:092-642-5603
FAX:092-642-5618